川島グループ 増収増益に

4―9月期 金属事業が堅調

川嶋代表

【浜松】非鉄総合商社、川嶋（浜松市西区）を中心とする川島グループ（川嶋義勝代表）は、2019年3月期上期（4―9月）連結決算が前年同期比で増収増益となったことを明らかにした。売上高で約358億9700万円、経常利益で24億700万円を計上した。主力の金属事業の堅調推移が後押しした。下期は上期の実績を下回る見込みだが、各事業で引き続き底堅い動きが予測されるため、通期でも増収増益を見込んでいる。

通期売上高720億円予想

同グループはアルミ精錬や貴金属スクラップのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など幅広い分野で事業を展開している。

18年度上期は主力の金属事業が堅調に推移した。アルミ合金事業が好調な需要動向などを背景に、前年同期の実績を上回るなど好調さを保ち、関連各社でも好業績を残した。また、非金属事業も全般的に堅調推移したことなどが上期決算で結果を出すことにつながった。

これを受け、通期業績に関しても増収増益を予測している。前期（2018年3月期）は売上高で712億円、経常利益で34億円を最終的に計上したが、今期は前期を上回る売上高で720億円、経常利益で36億―37億円を見込む。

下期は上期と比較して厳しい経済状況が予測されることや、関連各社の決算月の違いもあり、経常利益の伸びは上期よりも抑えられるものの、前期実績を上回ると予測。また、ゴルフ事業では9カ所目となるゴルフ場を今夏に取得したことなども業績を後押ししそうだ。